

# さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.883  
2020.7.12-19

発行

日本共産党さいたま市議会議員団  
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165  
http://www.jcp-saitama.jp/

神田よしゆき とぼ めぐみ  
とりうみ敏行 金子 あきよ  
松村 としお たけこし 連  
久保 みき

## 6月議会 新型コロナ対策

# 市民の声をねばり強くとどけ 補正予算で実現



6月18日の予算委員会で、新型コロナウイルスの影響で売上げが減少している市内小規模事業者・個人事業主に対して緊急経済支援として10万円を支給する市独自の事業は、申請数が8865件で想定した2万1000件に対して5割を下回っていることがわかりました。

この間、市議団として「開業届がない場合は代替書類で対応」「代替書類に添付する収支内訳書がない場合は、事業実態が確認できる書類で代替する」など、より多くの事業者がこの制度を使えるよう求めてきました。こうした運用の変更点を市がきちんと市内事業者に周知徹底するよう要望しました。

その後6月25日にも予算委員会が開かれ、追加で提出された補正予算の審査がおこなわれました。党市議団からとりうみ敏行、たけこし連の両市議が出席しました。可決された補正予算の内容を紹介します。

### 認可外への保育料の助成が実現

新型コロナウイルスの影響で、市の登園自粛要請に協力していた認可外保育施設の利用者に対して保育料を一部助成する補正予算が組まれました。

3月中旬、党市議団に「認可外保育施設でも登園自粛をしていた分の保育料を返還してほしい」という要望が寄せられ、市議団として市や厚生労働省などに対応を求めてきました。4月に認可保育所が対象に、5月に家庭保育室やナーサリールームなど市認定の認可

## 6月議会 新型コロナ対策の追加補正予算

認可外保育施設で登園自粛した利用者に保育料の一部助成	約5100万円	
抗原検査及び唾液検体を用いたPCR検査の自己負担分を公費負担	約1.2億円	
コロナ入院患者を受け入れるための病床を確保した市内医療機関への協力金支給	約2億円	
妊婦に対するPCR検査の実施等	約1380万円	
各区役所に「生活困窮者相談支援員」を増員	約2900万円	
就労継続支援事業所(A型・B型)に対し、生産活動の再起に向けて必要となる経費を補助	約1500万円	
新型コロナ患者が発生した介護サービス事業所等に対し、介護サービスの継続提供のための必要経費の補助	約3000万円	
ひとり親世帯臨時特別給付金(1世帯あたり5万円、第2子以降3万円等の支給)	約10.2億円	
一定の住居を持たず経済的に困窮している方に対し住居を提供し就労を支援する	約3030万円	
スクールアシスタント・スクールサポートスタッフの増員	約2.3億円	
学校再開に伴う保健衛生用品や備品の購入代	約2.7億円	
市独自	市長および市議等、特別職の給与を減額し医療機関の支援にあてる	約7088万円
	就労継続支援事業所(B型)で働く障害者の減少した工賃を市独自に支援	2490万円

外保育施設が対象に加えられるなど対象の拡大がはかられ、その後「その他の認可外保育施設」も対象に加われました。

たけこし市議の「これで市内にある566保育施設すべてが対象になったと認識しているか」という質問に対し、市は「市が認識している保育施設についてはすべて対象となる」と答弁しました。要望を受けてから3カ月もかかりましたが、党市議団が求めてきた「市内すべての保育施設で登園自粛に協力した保護者への保育料の助成」が実現しました。

### 検査の公費負担に1.2億円

新たに保険適用となった抗原検査および

唾液検体を用いたPCR検査等の検査費用の公費負担は、新型コロナウイルスの第2波、第3波を想定して体制を整えることを目的として補正予算が計上されました。

6月24日、さいたま市内の中学生が新型コロナウイルスに感染したとの報道がありました。その際に、生徒の家族はPCR検査をおこなったにもかかわらず、同じクラスや同じ部活に参加していた生徒には検査をおこないませんでした。とりうみ市議が理由をただすと、市は「同じクラスや同じ部活の生徒は濃厚接触者にはあたらない」と答弁。とりうみ市議は「今後、職場や学校で感染者がでた場合には、クラスター対策として関係者の全員検査を検討してほしい」と強く要望しました。

# 見沼田んぼ 農地をまもる 道路対策求める



懇談に同席する松村市議（右から2人目）

7月6日に見沼田んぼおよび周辺道路の整備等について農業者が市に要望し、松村としお市議が同席しました。

加田屋橋と野田小学校を結んで見沼田んぼ地内を通る市道はメタセコイア並木になっており、市も景観の良さをPRしているエリアです。同時に、並木が農地に沿っていることで、伸びた根が排水溝を壊したり、枝が農地に落ちるなどの問題が起きています。対応を求めたのに対し道路環境課長は「現地調査をしたうえで対応策を考えたい」と応じました。さらに同地域では農地の排水が不十分で湿地化して作付けに不適な土地になってしまっ

ていることから、改善を求めました。見沼田圃政策推進室長はとりくんでいく考えを示しました。

また中野橋と締切橋（見沼区と緑区の境）の間の歩道整備の要望についても「整備に向け調整中」との回答がありました。

松村市議は「見沼田んぼは多くの課題がある。解決に向け現地の方の声を反映して改善を求めていきたい」と話しています。

## さいたま国際芸術祭が中止

さいたま市は、3月～5月に開催予定だったさいたま国際芸術祭の事実上の中止を決定しました。

このイベントは、東京五輪の年に文化行事のビッグイベントとして計画され、テーマを「花/flower」とし、花の季節である春に、旧大宮区役所をメイン会場に開催される予定でした。経費は約5億8000万円で、ほとんどは支出済みです。開催延期（凍結）を決めた5月におこなわれたオリンピック・パ

ラリンピック競技大会支援特別委員会（久保みき市議が出席）では、延期により維持管理などに月額約200万円、再開催にはさらに約5～6000万円かかると報告されました。

いつ収束するかわからないコロナ禍です。党市議団は「このまま多額の費用をかけて開催延期するより、思い切って中止の決断をすべき」と議会でも主張してきました。久保市議は「市は、自粛要請で停滞している市民の文化芸術活動に対し支援するとりくみが求められる」と表明した。以前から市内の芸術家への支援を求めてきたのでうれしく思う」と話しました。

## 教育長再任に対する 日本共産党さいたま市議団の対応について

団長 神田よしゆき

6月議会の最終日、さいたま市教育長（細田真由美氏）の再任を求める人事議案の採決がおこなわれ、党市議団は、教育長の再任に反対しました。

私たちはこれまで、特別職の選任について、市役所の幹部職員や教育現場からの選任であれば賛成してきました。また、個々の市の政策の賛否などを問うことはせず、仕事を進めるにあたり市民の声や職員の声をしっかりと聴き、公平公正な業務を進める立場に立っているかどうかを判断基準としてきました。

しかし、今議会の教育長の再任については、多くの市民のみなさんからご意見が寄せられました。特に新型コロナウイルス感染症対策にかかわって、休校のあり方、「スタディエッセンス」など子どもたちの学習権に関わる声、そして「Clap for carers～10万人の子ども

たちから『ありがとう』の拍手を届けます～」のとりくみなどについて、厳しい批判の声が寄せられました。

これらのとりくみについては、教育長によるトップダウンで決められたことや、子どもたちや保護者、学校現場が尊重されたとはいえない状況が明らかになっています。

私たちは、教育行政は子どもたちや保護者、そして教職員の意見を聴き、教育委員会内での十分な議論をもとに合意を得て進められるべきと考えており、現在の教育長の教育行政の進め方には問題があると言わざるを得ません。以上の理由から、教育長再任の議案に反対しました。

他会派の賛成により教育長は再任されましたが、市民からの批判の声に真摯に耳を傾け、教育行政を進めることを願うものです。

### あなたの身近な議員です

